高リシンとうもろこし（遺伝子組換えとうもろこし）について

1　想定される用途

主に家畜等の飼料

2　特徴

とうもろこしからなる一般的な家畜用飼料は、動物の成長に必須であるリシン等のアミノ酸が不足しており、家畜を適切に成育させるためにはリシン等の添加が必要となるが、本製品の開発により、飼料に添加するリシンの量が低減可能となる。

3　食品としての安全性確認

遺伝子組換え高リシンとうもろこしは、飼料用として開発されたものであるが、商業栽培が進めば、食品用として利用される可能性は否定できず、また、意図せざる混入等により、食品用として流通する可能性を否定できないことから、食品安全委員会において、食品としての安全性について審査が行われている。

※　飼料としての安全性は、平成19年3月に確認されている。

4　栽培状況

開発者によれば、平成20年春から米国での商業栽培を開始する予定であるとのこと。

（「食品の表示に関する共同会議」資料から抜粋）